

会議開催結果

1 会議の名称	令和6年度砥部町行財政改革推進委員会
2 開催日時	令和6年10月16日(水) 14:00~16:00
3 開催場所	砥部町役場 2階 大会議室
4 審議等事項	(1) 会長の選出について (2) 第2次集中改革プランについて
5 出席者名	【出席委員】 正岡 健次、小田 理恵子、藤原 俊彦、上田 文雄、 山下 吉信、大久保 武、渡部 麻紀 【事務局】 小中 学(企画財政課長)、菊池 安修(同課課長補佐)、 岩佐 千恵(同課係長)
6 公開又は 非公開の別	公開
7 非公開の理由	—
8 傍聴人数	0人
9 所管課	企画財政課 企画政策係 電話 089-909-4670

発言者	発言内容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会あいさつ ・ 自己紹介 ・ 会議の公開・非公開について ・ 配布資料確認
事務局	<p>協議事項</p> <p>(1) 会長の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員の互選により、上田文雄委員を会長に決定 <p>(2) 第2次集中改革プランについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局説明
委員	<p>C評価だったEBPMの推進について。唯一、悪い評価であるが逆に、それでもよかったと思う。EBPMと行政評価はつながって見られるのだが、政策をきちんと計画段階から作り込んだうえで数字が動くことによって地域が持続できるが、根拠がなければ、数字の管理に追われて、単なる行政評価の繰り返しとなる。最近、先進的な自治体は評価疲れと言われていて、特に自治体職員の忙しさは、私も課題意識として持っている。基本構想の期間終了2027年度までの残り3年ちょっとあると思うので、このタイミングでEBPMに対応できるような、政策のロジックモデルがきちんと含まれている政策を計画の中に落とし込んで、しっかりと実装させていく流れを2～3年かけて取り組む必要がある。</p>
委員	<p>19番の若手職員プロジェクトチーム活性化について、提案された2件が予算化されたと思うが、事業の詳細を教えてください。</p>
事務局	<p>人口減少対策に対応するもので、若者の出会いの場づくりとしてイベントを開催するというもの。若手職員が複数回のワークを開催して提案したものです。</p>
委員	<p>合計特殊出生率が全国で1.2となっているが、この中には未婚の女性の数が含まれている。一方、夫婦の完結出生児数を見ると、今の時点で1.9となっており、割と高い。日本の根本的な少子化の原因は、結婚していない人が増えてきたということ。この観点でいくと、プロジェクトチームにおいて、出会いの場を創出することがボトルネックになっているというロジックを組んでいるのであれば、EBPMに当たる。</p>

委員	<p>財政調整基金を取り崩す状況にあるということで、砥部町は他の厳しい状況にある自治体と比べるとまだ大丈夫な位置付けかと思われられる。一方で、公共施設のマネジメントについて、どこの自治体でも言われているが、砥部町も昨年度、計画を策定して取り組まれ、ここで単年10億ぐらい支出を見込んでいる。起債を充当したとしても、一般財源で5億ぐらい必要としているが、財政に与える影響はどのように考えているか。後世に負担を残すことになってしまうあたり、町民の方への説明、もうちょっとしっかりと決めてやったほうがいいのかなというのは感じたところ。その辺りの見直しについて、聞かせて頂きたい。</p>
事務局	<p>総合計画等の計画にも載っていなかった事業が、例えば去年でいうと、松山南高校の分校が統廃合を間逃れるということで猶予を頂き、それに伴う寮の建設に8億円を要した。いきなりその単年に上がってくるとということで、どうやっても施設を管理していくのに経費を削減する必要がある、なかなか難しく、苦渋の決断を下す必要がある。</p>
委員	<p>18番の建築に係る組織の立ち上げについて、作業する人が充てられなかった話があったが、特殊な例なのか、それとも、職員の数が少なくなっているからなのか。</p>
事務局	<p>砥部町で建築の資格を持っている職員がいないところから始まったプラン。今、管理とか設計を全て委託にしているので、職員を雇って、そこに充てるというような方向性でこのプランが出来上がっている。</p>
委員	<p>市民協働は非常に重要となってくると思うが、3番のキラまち事業について、申請がなかったということで、ヒアリングはこれからという話があったが、今後の展望について、どのように進めていくのか聞かせていただきたい。</p>
事務局	<p>担当課の考えは図りかねるが、町としてPRができていないもの。区長会で一方通行で投げかけただけ、具体的な説明がされずに続いており、未着手に近いやや遅れ気味と当課では捉えている。</p>
委員	<p>人材バンクの整備と情報提供について、町の人たちへの公開はされているのか。</p>
事務局	<p>県、各市町連携で講師バンクを作っているが、個人情報も入っているので、一般公開がなかなかできないのかなというところ。データ化は、今後、更に進めていくとは思いますが、やはり問合せしていただいたうえで、分野ごとの登録講師を斡旋するような形になるのかとは思っているが、その辺りも担当課とも協議をしていかないといけないと考えている。</p>

委員	27 番の財政調整基金の残高はいくら程度か。
事務局	令和6年の3月末時点で8億円代に落ちた。本来、前年度、5年度分の繰越金の半分は財政調整基金として積立てることが法律で決まっているが、できなかった。2年間で積立てることとなっているので、1年遅れて、今年2年間分を積立てたので、8億まで落ち込んだが、一旦は復活する。ただ、例年のことであるが、令和7年4月時点での財源が、財政調整基金を切り崩すかどうかしない現金がないような状況が繰り返されている。健全に見えるが、小さな町なので、大きい事業を一つやると、目に見えて、悪化する。今のところは数字的には問題がないように見えると思うが、何がわかるか分からないので、これからは1番お金がかかるのは災害と言われているが、防災の基金を必ず積立てていくようにしたい。
委員	公債費はいくらあるのか。
事務局	町でいう借金と呼ばれるもの全て合わせて150億ある。 単年度の償還費は7～8億、将来負担利率も若干悪化している状況。
委員	地方創生関連予算の活用状況については如何か。
事務局	県と連携した事業で活用している他、分校の寮の関係で地方創生と拠点整備を活用している状態。寮の建設8億円のうち共用スペースの2億円分を活用している。
委員	ふるさと納税について、紅まどんなの申込み分を用意できない状況にあるとのことだが、これはぜひ農協に陳情していただきたい。
事務局	昨年からお願いはしているが、JAえひめ中央内での配分がある関係で、なかなか対応いただけない。 他の市町ではJAを通さない商品の部分で寄附額を増やしているところもあり、本町でも昨年、規格以外の商品を開拓したところ。
委員	診療所の問題であるが、先ほど財政のことは聞いたが、費用対効果だけではなく、命を守るために絶対必要である趣旨を踏まえて、少人数でもいれば残していただきたい。
事務局	当然そういった意見については承知しており、行政側が勝手にそうするという強引な方法をとるつもりはない。住民の方が、これなら納得できるという代替案があってそれが叶うので、それがすぐ何年後にできるという話ではないと考えている。

委員	<p>先生が退職を迎えるということを聞いて、地元としては危ない状態なのかと考えている。赤字だからという発想は考えられない。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 事務連絡・ 閉会
----	---